

INFORMATION

荒木野馬 追悼展

昨年（平成 25 年）10 月 31 日に亡くなった人形作家・荒木野馬さんの第一回追悼展が銀座「ギャラリーおかりや」にて開催されます。荒木氏は、球体関節人形だけでなく、動物、あるいは人と動物が融合した造形作品にも力を入れ、単なる創作人形の世界にとどまらない独特な世界観を表現し続けました。今回の追悼展では、すでに個人所有となっている作品も展示され、荒木氏の代表作を俯瞰できる貴重な機会となっています。

荒木野馬 追悼展（第一回）

球体関節人形&動物造形作品

2014 年 10 月 1 日（水）～10 月 6 日（月）

11 時 AM～7 時 PM（最終日 5 時 PM）

ギャラリーおかりや

〒 104-0061 東京都中央区銀座 4-3-5 銀座

AH ビル B2F

TEL 03-3535-5321 FAX 03-3535-5370

<http://www.g-okariya.co.jp>



12 月のロシアのイベントにチーム・コヤーラ参加

ART OF DOLL（12 月 12 日～14 日 ロシア / モスクワ）

チーム・コヤーラ招待枠で長谷川裕子さん、Noe さん、くるはらきみさん、クサボンさん他の作品を展示予定です。公募展受賞作品（第 1 回受賞者も含む）のなかからも出品にご協力頂く予定です。昨年の ART OF DOLL に続き、公募展出品者の新家智子さんの作品の展示が決まっています。チーム・コヤーラスタッフ見習いでクサボンさんも訪露予定！

HELLO TEDDY!（12 月 4 日～7 日 ロシア / モスクワ）

公募展出品者も、出展することになりました！

JAPAN BOOTH 出品者：松沢香代、しろいろ、Ryoko ~needle felted art~（公

募展から）、deeper-bj（公募展から）、青の羊、CHICHIPI

※ともに見学希望者（同伴者可）の方は、アンケートで 10 月中にお問い合わせ下さい。日程でご希望にあわせた旅行プランを、旅行会社からご提案させていただきます。（写真 2013 年 Art of Doll 会場）



コヤーラ・クラブ入会条件

入会金なし 年会費：2000 円（更新時に 2 年分一括払いの方は 3900 円となります。）
年 4 回（1・4・7・10 月）のチーム・コヤーラのニュースレターと DM 便が届きます。

お申し込み方法

年会費 2000 円を以下の方法でご送金ください。

【郵便振替】 通信欄に「コヤーラ入会」とお書きください。

送金先「口座番号」 00140-7-358370 「口座名」 チーム・コヤーラ

※ご入金を確認できたらチーム・コヤーラよりハガキで受領証と会員証を兼ねたお知らせをお送りし、次の号から「コヤーラ通信」をお送りします。更新時には、有効期限内の最後の号を発行するときに、更新のお知らせを同封いたします。

DM 同封希望の方（発行月から 3 ヶ月の間に展覧会を予定されている方）

事前に枚数などお問い合わせの上お申し込みください。同封 DM は発行月の前月 20 日にチーム・コヤーラ必着でお送りください。

同封料金 コヤーラ・クラブ会員：2000 円 一般（非会員）：3000 円

紙上展応募の方

会員の方の人形の自作品の写真を受け付けております。

20 号㍻切 2014 年 12 月 1 日（必着）

以下を下記まで、郵送かメールでお送りください。

2015 年 4 月ドイツ スプリング・ドール・フェスティバル

【SPRING DOLL FESTIVAL】出展者募集

（ドイツ / ミュンスター 4 月 25 日・26 日）

出品者・ツアー参加者募集！

チーム・コヤーラは、ドイツで初めて開催される「スプリング・ドール・フェスティバル」に協力、主催者と連携し、実りのある開催を目指しています。会場のチーム・コヤーラ枠ではプロ招待作品を展示（審査有）。チーム・コヤーラのスタッフが現地で作品紹介のお手伝いを致します。展示作品については、現在選定中です。会員の皆様からも自薦他薦を受け付けいたします。（チーム・コヤーラ枠出品条件の詳細は、対象者の方にご案内いたします。）

テーブルやブースを購入して参加する一般参加枠（審査無し）もあります。見学・観光目的でご参加ご希望の方にも、宿泊・移動のご心配がないように、主催者とともに必要な情報をご案内させていただきます。

もちろん、個人での直接応募、出品も自由。会場には日本語通訳が常駐し、日本からの出品者のお世話をいたします。

日本語のウェブサイトはこちら

<http://springdollfestival.jp.com/>

コンテスト「アマリア賞」開催

同フェスティバルでは「アマリア賞」コンテストが行われます。1 体またはジオラマ（最大 50cm x50cm）の範囲であれば、応募に制約はありません。応募作品はミュンスターで開かれるスプリングドールフェスティバルの特別展示場に飾られます。5 名の国際的な審査員による審査が行われ、最も優れた 5 作品が選ばれます。

4 月 26 日 受賞発表（会場にて）

応募㍻切 2015 年 3 月 15 日

出品料 29 ユーロ（2014 年 11 月 30 日までお申し込みの場合は、割引価格の 21 ユーロ）

※ミュンスターでは同日程でティピエアの国際的なイベント、ティピエアトータルも開催されます。共に同じ主催者による開催で、会場は隣接、入場券は両イベントに入場できる共通チケットとなります。

genre:gray ロシア同行レポート 不掲載のお知らせ

前号でお知らせした genre:gray のエカテリンブルグ人形劇フェスティバルの同行レポートですが、羽関の都合により同行キャンセル致しました。このためリポート記事はありません。

アンケートをご利用下さい。

同封されているアンケートは、会員の皆様のご希望やご意見を伺うためのものです。このアンケートから、活躍のステージを発展させた方もいます。どうぞご利用下さい。

作品写真 2~3 点（全体・アップ・裸形） サイズ：ハガキ大。

「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。

※何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載はお一人 1 点になります。

※応募作品はウェブ上で公開されることもあります。（講評は紙面のみ掲載）

※応募書類は返却いたしません。

個人情報について

頂いた個人情報はチーム・コヤーラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。

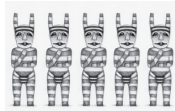
名簿はチーム・コヤーラのニュースレター発送に使用させていただく他、チーム・コヤーラの趣旨に沿って DM クラブ会員にとって有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤーラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

各お申し込み・連絡先

チーム・コヤーラ
東京都東村山市久米川町 3-27-57 HAZEKI office 内
TEL 042-395-7547（担当 ハゼキ）
FAX 042-395-7975
URL <http://www.ab.auone-net.jp/~koyaala/>
Email team_koyaala@yahoo.co.jp

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ（HAZEKI office）

©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan 本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。



KOYAALA 通信 No.19

Oct.1, 2014



「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤーラがコヤーラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年 4 回発行 発行日（予定） 1 月 1 日、4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日

第 2 回創作人形公募展リポート

2 回目を迎えた創作人形公募展では、58 名の方の作品を展示させて頂きました。

チーム・コヤーラは、状況が許す限り応募作品は実物展示での審査を心がけています。人形作品を写真で審査することの難しさを痛感しているからです。

またこの公募展に応募した出品者の挑戦を、チーム・コヤーラは「頑張してほしい」という思いで迎えているからです。賞は限られた方にしか贈られません、展示をすることからスタートする出品者の方とのコミュニケーションを大切に考えています。

今回も出品者のみなさん同士に、またチーム・コヤーラスタッフにも、たくさんの出会いがありました。その場を提供できたことが、スタッフの一番の喜びでした。

会場では出品者のご希望で、公開講評も行いました。そこで話したことも含まれています。

それらの事例を、いくつかまとめてみましょう。

布帛人形が増えた -----

今回、会場で出品者の方からお話を伺ってみると「一人で作り続けて迷っていた」とか、「どこに出して良いかわからない」「他の公募展に出しても浮き上がってしまう」など孤立感を感じていた方が少なくありませんでした。そのなかでも布帛人形で出品された方は、異口同音にそのような訴えをされていました。



「生命の灯」土井千尋（チーム・コヤーラ賞）

出産した娘の胎毛を使い、娘を模した作品。石塑・油彩 40cm

「力がある、作品にエネルギーがある。でもエネルギーがあるだけでも駄目、押さえるところが必要。そういうところで、とても調整がとれていると思います。そして、固い素材なのに柔かい」（四谷シモン）

上級者の苦しみ

しかし、だからといって石塑やビスクが布帛に劣っているというわけではありません。制作者にとっては、一番合っている素材というものがあります。布帛にしても、石塑、ビスクにしても、それが見つかれば、制作はほぼ成功したようなものです。技術は努力すれば到達目標に達することができますから。

今回は、ハイレベルの技術を持ちながら悩んでいる方々を何人か見かけましたが、特に球体関節人形を作られている方によく見られました。技術目標に達したあとに目指すものは？ 手を変え、品を変え、表面の見かけを変えることに腐心されている方もいます。

苦しい気持ちで作っている人形からは苦しいものしか伝わってきません。自分を分かって欲しいと思って作る人形は、見る人を解放してくれません。まずは、自分が人形作りが楽しかったときのことを思い出して、楽しく作ればいいだけのことだと思います。開き直るくらいの気持ちが欲しいものです。どんな表現でも、どんなに技術が上達しても、作品はその人の器の範囲のものしか反映しません。言い換えれば、人間の器が小さい人の作品は、どんなに技術が優れていても面白くありません。すると、人生を楽しみ人々を豊かに観察する能力を培うことが重要な課題になってきます。まずは、肩の力を抜いてから。

作品の方向性が整理できていない傾向

技術開発途上で迷っている方の作品には、あらゆる要素をひとつの人形につぎ込んでしまっている例がよく見られます。その度にいつも使う説明が、ロシアの展示会で私が聞いた普通のお客様の言葉です。日本で技術も確かで人気も定着している個性派の方の作品を見て、その人は「この人形は、写実的な表現は見事だけど、頭部だけがシュールレアリスム。どうしてですか？」と聞きました。この鋭い問いかけには、絶句しました。欧米のアートのセンスで制作する方は、こういう問いに対して明確な回答が必要です。しかし、作者達はそこまで考えているのでしょうか？この指摘が当てはまるプロの作家は日本にたくさんいます。そういう作家作品を見慣れたアマチュアならば、なおのこと。辻村寿三郎さんも、関節人形を「からだはデフォルメされた関節人形なのに、顔が写実的で調和がとれていない」と批評されたことが一度ならず何度ありました。その整理ができているか、ご自分で制作した人形を見直してみてください。

賞を意識しすぎ？

コンテストに出るからには賞を狙いたい。それは自然の心理だと思います。応募者のなかには器用な方がいて、他の公募展などを見て、主催者の好みにあわせた作風で応募される人たちを見かけます。そういう人の作品は、名前を見ないと誰が作ったものかわかりません。一方、どこで見ても誰が作ったか一目で分かる方もいます。筆者は、後者の方に好感を抱きます。相手によって技術を振り分ける力がある人よりも、自分の土俵で自分と向き合ったものしか出せないし出さない人のほうが、魅力的な人形が生まれてくる可能性があると思います。国内外の市場で作家をプロモートすると、その違いは如実に人形に現れ、ファンはその人の個性を支持していくという現実を見てきています。

目先の結果を追いかけるより、長い目でみてチーム・コヤーラの公募展では、自分の作りたいものに思いっきり挑戦してみてください。挑戦する人を応援するチーム・コヤーラの公募展ですから。



④「ダラゲリア」ユズミコ
(よねやまりゅう賞) 布・綿 40cm
「この人の作品はもっと見てみないとわからない、これから変なものが出てくると90%くらいは期待したいと思って選びました」
(よねやまりゅう)

①「ガイア」原田万紀 (矢部藤子賞)
綿・ジャージ・古布 50cm
「出品作のなかで一番布を愛している作り手だと思いました。布使いが上手で全体的な形もうまく計算されていると思いました」
(矢部藤子)
②「だって…。」風らい坊 (四谷シモン賞)
羊毛フェルト 20cm
「会場をばばばと見て、あ！これ、と。何も考えさせるものがなくて、直感です。意味も何もなくて。すごく大事なことです。作品で、訳を考える時間を与えると頭が作用しちやいますから」(四谷シモン)
③「無題」池谷基 (羽関チエコ賞)
木くず粘土 30 cm
「写真を見たときは奇をてらっているのかという印象があったけど、実物を見たとき、モノとしての存在感がありそこに愛らしく、摩訶不思議なものと思って選びました」
(羽関チエコ)

奨励賞

- ⑤成瀬麻里子「ひなたのにおい」
- ⑥クサボン「無題」
- ⑦新家智子「おやすみの時間」
- ⑧佐々木英俊「無題」
- ⑨ KINO4TA「無題」
- ⑩ Minagawa Dolls「AiDocka」



審査員特別出品
矢部藤子「みのり」
素材、技術、表現など、すべての模範例となる素晴らしい作品でした。

コヤーラ・フェス賞

- ⑩ Minagawa Dolls「AiDocka」
(奨励賞とダブル受賞)
布と木毛で制作された絵画的な作品。粗い素材感が生かされた美しい色づかい、魅惑的な顔の表情は会場の人の関心を強く引きつけました。



受賞者と作品

※審査方法：各審査員賞は審査員により決定。奨励賞は羽関を除くチーム・コヤーラのスタッフの合議、チーム・コヤーラ賞は審査員とチーム・コヤーラスタッフ全員の合議で決定。コヤーラ・フェス賞は会場投票の集計結果で決定しました。

チーム・コヤーラ賞 土井千尋 (北海道)「生命の灯」

四谷シモン賞 風らい坊 (東京都)「だって…。」

よねやまりゅう賞 ユズミコ (神奈川県)「ダラゲリア」

矢部藤子賞 原田万紀 (奈良県)「ガイア」

羽関チエコ賞 池谷基 (京都府)「無題」

奨励賞 佐々木英俊 (東京都)「無題」

奨励賞 KINO4TA (東京都)「無題」

奨励賞 クサボン (福岡県)「無題」

奨励賞 新家智子 (和歌山県)「おやすみの時間」

奨励賞 成瀬麻里子 (北海道)「ひなたのにおい」

奨励賞 Minagawa Dolls (北海道)「AiDocka」

コヤーラ・フェス賞 Minagawa Dolls (北海道)「AiDocka」

※コヤーラ・フェス賞選外 次点:土井千尋、deeper-bj (同数) 3位: 佐々木英俊

受賞パーティ 9月1日 於：渋谷 bar Jack

今回は、受賞パーティに多くの人に参加して頂けるように、搬入日である9月1日に受賞パーティを開催、参加者の皆様の「メインディッシュ」として、ゲスト作家も招待させて頂きました。パーティに出席して頂いた作家や関係者の皆様 (順不同、敬称略)：四谷シモン、よねやまりゅう、矢部藤子 (以上審査員) 山本じん、山吉由利子、くるはらきみ、つじとしゆき、井桁裕子、斎城卓 (写真家) また、出品者は58名中40名が参加という高出席率でした。そのほとんどの方がお一人参加、お友達がいない状態での参加の方ばかりでした。参加された方の言葉を借りれば、「アウェー感」があったわけですが、実はそれをほとんど皆さんが感じていたのです。しかし、モニターに映し出される作品の講評、ゲストの楽しい人形談義を通じて、ここでお友達を増やされた方も多かったようです。審査員やゲストに直接講評を訊ねる方もいらっしゃいました。その時の楽しい様子も動画に記録、順を追って配信していく予定です。チーム・コヤーラでは年に一回は、こうやって人形制作がきっかけで集まる人たちとフランクに語り合える楽しい場を設けたいと考え始めています。動画チャンネル (YouTube) ID は team_koyaala ゲスト紹介の動画は既に公開されています。「第2回チーム・コヤーラ創作人形公募展①～受賞パーティ～」 http://youtu.be/8TF_7u7qinU

